

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	第2 光陽		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 1日		～ 令和7年 5月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34名 (兄弟利用2家族含む)	(回答者数) 32名
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 1日		～ 令和7年 5月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 6月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多彩なプログラム構成	5年後、10年後先を見据えた上でのプログラム構成を行っており、継続して取り組むことで力となることを見据えて実施している。又、ご利用者様の状態像に合わせた、グループ編成を行い、ステップアップできるようにしている。	療育を通して、楽しいだけでなく苦手なことにもチャレンジできるようにきっかけ作りを行い、達成感を感じられるような内容にしている。
2	就労部門との連携が図れ 療育内容に展開されている	・学年が上がり、将来的な進路を考えられるきっかけがある。 ・同法人内の就労部門と連携し、定期的な勉強会があることで、保護者様が進路のイメージが図れる。 ・ご利用者様自身は、憧れとなる大人を間近で感じることができる。学年ごとに必要な姿勢・人との関わり方を学ぶべうように、体験型やステップアップが図れるようにしている。	・保護者様には、法改正に応じた内容で説明会の実施を継続していくと共に、対象学年の保護者様には懇談時にもお話を する。 ・ステップアップを図る際に、テスト方式を実施し、評価されることに認識を持てるようにすると共に、合格することで実施できる体験を積むことで、努力することの大切さを学べるようにしていく。
3	SNSの活用	毎日必ず活動の様子を発信しています。 活動の内容を知っていただけるようになっています	動画も配信していけるようにしていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	コロナ禍以降、地域交流で行っていた文化祭の活動が実施でき ておらず、地域交流の活動が減っている。	コロナ禍で他者との関わりを制限していた為。	買い物や外食に出かけたり、公共交通機関を利用しての外 出、地域のイベントに参加をしたりと、地域交流の機会を設 けていく。
2			
3			